



現代の宇宙観はどのように
成り立ってきたか

国立天文台「今日の星空 ペルセウス座流星群」より引用

現代の宇宙観はどのように成り立ってきたか

研究動機

国の文化や一人一人の感性が全く違い、SNSも発展していない古代~中世で、宇宙や星、銀河はどのように共通の定義を持ち始めたのか、古代の人々の考え方と今定義された宇宙観の知識・常識をもつ自分達とで時代を超えて考えや発想を共有したいと思った

問い

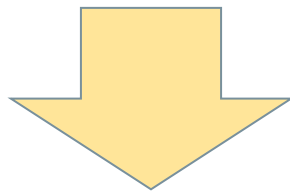
- ①古代ヨーロッパ、主にギリシア天文学の成り立ちと宗教や当時の流行についての相関性（7月~12月）
- ②インド天文学の成り立ちと宇宙観、古代より中国との交流について（11月~1月）

結論

天文学者やそれに関わる者へのあてつけや縛りは無かったと思われる。

結論①の根拠

- ・ 個々を尊重する傾向があった。
- ・ 古代ギリシア人はそれぞれがその土地の神やオリンポス十二神など、神話にまつわる神々を信仰し、土地によって様々な風習や文化があった。
- ・ 自由な風習があったという証拠文献として
B.C8世紀末の吟遊詩人ホメーロスが執筆した「イリアッド」「オデッセイ」
B.C7世紀頃の吟遊詩人ヘーシオドスの「神統記」「仕事と日々」などがある。
- ・ 本土だけでなく広い地域に広まっていき、
誰か、何かの組織がそれらの広大な地域を統一することは難しかった。



やがて、ギリシアを中心とした南ヨーロッパの人々は
神から人間の運命（特に死後の世界）に関心を抱くようになる

そこで、新たな形の宗教や信仰が流行する。

神秘的な宗教軍団が死後の導きを約束し、謎めいた儀式が演劇のように行われ、
エーゲ海のサモトラケ島では夜にたいまつの炎のもと、
偉大な神々に秘儀が捧げられた。



怪しい宗教軍団の出現に伴い特に天文と神話を掛け合わせた文
献が多く出版されるように。

古代ギリシア・ヨーロッパ世界では

ホメーロスやヘーシオドスが書いた文献の中で
うしかい座、ヒアデス星団、オリオン座、シリウス、おおぐま座
などが言及されている



星や宇宙の定義こそまだないが、
宇宙がどのように出来たか、地球とはなんなのかなど、
人々の関心が上がってきている。

この時点でギリシア世界では、
時間、日にち、季節単位で出る星が違うことはもう明確になっている
が、どれがどの星で規則性はあるのかがまだ解明されていない

オリンポスの十二神

誰もが聞いたことのあるであろう、十二神の中でも特に強い力を持つ神々、ゼウス、ヘラ、ポセイドンなどオリンポス十二神を代表する神々ほど多くの人に信仰されていた傾向がある。

ギリシャ名	ローマ名	英語名	属性
ゼウス	ユピテル	ジュピター	最高神。雷鳴、社会秩序を司る
ヘラ	ユノ	ジュノー	最高女神。ゼウスの妻
アポロン	アポロ	アポロ	医術・音楽・予言を司る
アルテミス	ディアナ	ダイアナ	狩猟・月の女神
アテナ	ミネルバ	ミネルバ	知恵・工芸・戦いの女神
アレス	マルス	マース	戦いの神
アフロディテ	ウェヌス	ビーナス	美・愛・豊饒の女神
ヘファイストス	ウルカヌス	バルカン	火・鍛冶の神
ヘルメス	メルクリウス	マーキュリー	富と幸運の神
ディオニュソス	バックス	バッカス	酒・演劇の神
デメテル	ケレス	ケレス	穀物・大地の女神
ポセイドン	ネプトゥヌス	ネプチューン	海・地震・馬の神

*ディオニュソスの代わりにヘスティア（ローマ名・英名ウェスタ）かまどの女神を入れる説もある

②インド天文学の成り立ちと宇宙観、 古代より中国との交流について

○中国とインドの古代からの関係性

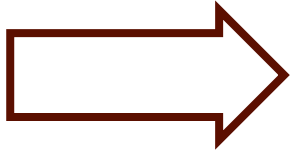
同じ仏教ということもあり、古代よりこの2カ国は互いに無いものをお互いに共有してきた。

-主に中国からは言語、書物など（今の日本の漢字も中国から伝えられたもの）

-インドからは巧妙な技術による美術品などが多く送られる

○中国の書物には天文の物語

インドの美術品の模様には星や星座が描かれていたり、
各国が得意とする産物の中に天文も入り交じっていたことにより
情報の共有ができていたのだと考えられる。



また当時の中国はアジアの中でもトップを誇るほどの
権力や軍事力、土地をもっていた

||

両国にとって、中国からの無理強いや服従以外、
利益しかないような関わりを保っていたと考えられる

◇古代インドと中国は、シルクロード建設、同じ宗教という共通
点があることが大きな根拠となる。

②インド天文学

古代インド天文学の大きな定義（正しいとされていた思想）

世界は巨大な亀の甲羅に支えられた3頭のゾウが
半球状の大地を支えている

イメージ図 引用：rika-net.com より



◇古代インドの宇宙観◇

太陽が真ん中にあることや生き物によって支えられている点など、違う思想や宗派をもつ国でも共通点があったことから、人類の考えることに共通点はあったことが伺える



◇古代エジプトの宇宙観◇

今後の展望

- インドの文明開化と共にもう少し古代インド天文学について掘り下げる
- 古代中国天文学にうつり、東アジアである日本や西アジアであるエジプトへと関連づける
- 同じ大陸やアジア周辺の天文の定義やそれら情報交流の場についても調べていき、ネットワークが無い社会での天文の発達の経緯を見出す

参考文献

◇ウェブサイト

- ・古代ギリシア「満天の神々」

https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/magazine/16/062000011/062100004/?ST=m_magazine

"イリアッド"

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%82%B9>

"オデッセイ"

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%87%E3%83%A5%E3%83%83%E3%82%B%E3%82%A4%E3%82%A2>

- ・"ギリシャの天文学"

asait.world.coocan.jp/kuiper_belt/eclipse/greek_astronomy.htm

- ・Wikipedia より「古代ギリシアの宗教」

<https://ja.m.wikipedia.org/wiki>

- ・"古代インド天文学"

asait.world.coocan.jp/kuiper_belt/eclipse/greek_astronomy.htm